

白鷺

No. 49
2018.1.25



白鷺連合会創立55周年記念大会・伊豆丸鷺洲先生生誕130年祝賀会
白鷺の母・松尾鷺恵先生享年百を全うされご逝去

年頭にあたって

白鷺連合会
会 長 松 尾 佳 恵



会員の皆様方には、健やかに新年をお迎えになられたことと存じます。平素は白鷺連合会に対しまして、何かとご協力をいただきましてありがとうございます。

昨年の白鷺連合会創立55周年記念吟詠大会併せて伊豆丸鷺洲先生生誕130年の開催の折にも、いろいろとご協力参加いただき重ねて心より感謝申し上げます。

早いもので、平成26年の理事総会にて白鷺連合会会長に就任しまして、今年で二期が終わろうとしております。役員の方、会員の皆様方に助けられての4年でした。本当にありがとうございました。関西吟詩総本部では、地藏会

長のスローガンであります「温故新生」（視座を変えて）を掲げ、「盤石な組織づくり、財政基盤の健全化、運営体制の構築」と4年後のあるべき姿を想定しておられます。白鷺連合会からも多数の先生方が総本部執行役員としてのお役目を担っていただいておりますので、これからはますます皆様方と相談、協議しながら邁進して参りたいと思っております。

今年も新たな一年が始まります。早々2月18日には白鷺青年部創立50周年記念大会、そして4月8日には第57回白さぎ吟詠の集い競吟大会が開催されます。会員の皆様方、ご協力の程、宜しくお願いいたします。

楽しく和やかに「一心向上」

以上

平成30年 白鷺連合会 新年互礼会 開催

白鷺連合会新年互礼会が1月6日（土）「大阪リバーサイド ホテル」において開催されました。

午後4時、谷澤暁声総務部長の力強い開会宣言とともに、総務部長総司会進行により新年互礼会がスタートです。

まず、岩間鶴声総務局長のご挨拶、今年は「ワン」ダブルの一年になるようにと・・・開会挨拶があり、小平秋紅総務局次長による巻頭言唱和、西村夕城副会長による関西吟詩会歌、岡田岳遙副会長による白鷺連合会会歌を声高らかに合吟されました。

続いて、会長松尾佳恵先生のご挨拶があり、55周年記念吟詠大会の会員皆様のご支援ご協力に感謝するとのお礼の言葉がありました。代表挨拶として伊東鷺伸顧問から、白鷺連合会も変

革の年・変わらなければならない年との挨拶がありました。

代表挨拶後、平成30年 第57回白さぎ競吟大会 岩間実行委員長、各委員の委嘱式が行われました。

いよいよお待ちかねの懇親会、青年部部員の池田・藤原さんのフレッシュコンビによる司会、先ず松尾岳豊顧問の乾杯で幕があきました。各人杯を酌み交わし旧知を温め情報を交換し、各テーブルからカラオケもあり、懇親を深めました。

最後に片山鷺丘副会長の閉宴ご挨拶、安田鷺迪顧問の万歳三唱御発声で閉会しました。名残尽きないのか更なる談笑などがあり、心の底から湧き出る白鷺の団結力を見た気がしました。

広報部 岳野恍輔（記）

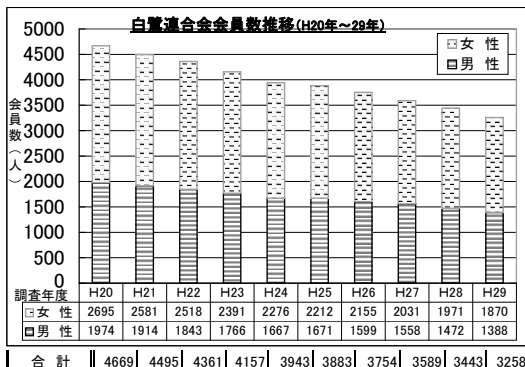


平成29年度 実態調査の結果について

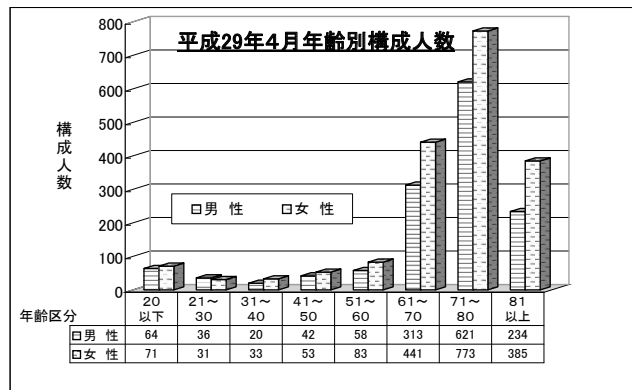
総務部で毎年実施している実態調査につき平成29年度の結果を報告します。

(総務部所管)

白鷺連合会会員数の推移(平成20年～平成29年)



調査年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
男性	1974	1914	1843	1766	1667	1671	1599	1558	1472	1388
女性	2695	2581	2518	2391	2276	2212	2155	2031	1971	1870
合計	4669	4495	4361	4157	3943	3883	3754	3589	3443	3258



年齢区分	20以下	21～30	31～40	41～50	51～60	61～70	71～80	81以上	合計
男性	64	36	20	42	58	313	621	234	1388
女性	71	31	33	53	83	441	773	385	1870
合計	135	67	53	95	141	754	1394	619	3258

関西吟詩総本部主催全国競吟大会に於ける白鷺会員の結果

◆平成29年度全国新人・中間層競吟大会 平成29年11月12日(日) 於：尼崎エーリック

[新人の部]

入賞

艸葉美恵子 鷺舟会 上柿由香里 淞苑会
中村清 青誠会 日高康人 志舟会
赤羽根照子 広島鷺雲会 藤本英乃 岳豊会
野元典子 鷺伸吟詠会

[初級の部] (無段～2段)

準々優勝 山田恵美子 春鷺声栄会
第6位 上田智祥 攝友会
入賞

畝川翔太 広島鷺夕会 松尾昌昭 青誠会
堀川和枝 愛鈴会

[上級の部] (3段～4段)

準々優勝 伊藤利博 鷺伸吟詠会
第8位 青木耕二 鷺照吟詠会
入賞

菊川節子 淞苑会

[和歌の部]

入賞

菊川節子 淞苑会 石飛雄三 広島鷺夕会
伊藤利博 鷺伸吟詠会

◆平成29年度全国指導者級吟士権者決定吟詩大会 平成29年12月10日(日) 於：高槻現代劇場中ホール

[吟士権の部]

第5位 沢田千鶴香 鷺伸吟詠会
第6位 井垣義昭 岳豊会

第7位 阪本和世 淞苑会
第8位 米田真澄 成秋会
第11位 山本正男 鷺声吟詠会
入賞(プロ順)

池田久志 攝友会 尾崎安彦 鷺恵会
佐田保朋 攝友会 野窪國生 攝友会

[準師範の部]

第5位 森佳奈子 攝友会
入賞(プロ順)

高島恵子 攝友会 石本哲郎 広島鷺夕会
坂下公枝 浜松鷺長会 空富美子 鷺照吟詠会
中村雅典 鷺伸吟詠会

[師範代の部]

優勝 重光弘子 広島鷺夕会
第5位 川野恵弘 岡山鷺照会

第7位 沖本周子 広島夕朋会
入賞(プロ順)

高村真由美 広島鷺夕会 中岡克典 鷺声吟詠会
田中ますみ 岳豊会 堀部綾子 広島鷺夕会

[和歌の部]

準優勝 吉川弘之 広島鷺夕会
準々優勝 阪本和世 淞苑会

第5位 倉岡英子 広島鷺夕会
入賞

土谷紀美子 岳豊会 天田富美子 澄声会
紀野実知子 浜松鷺長会 吉谷美智子 岳豊会

“この大会に早朝より準備、お世話を頂きました大会委員の先生方に厚く御礼申し上げます”

平成29年度 白鷺連合会理事総会議事録

●と き : 平成29年5月13日(土)午後5時～7時

●ところ : 海老江西コミュニティーセンター

◇総会決議事項

- | | |
|--|-----------------------------|
| 一、巻頭言唱和 | 副会長 飯田報鷺 |
| 一、関西吟詩文化協会 会歌合吟 | 副会長 川畑璋鵬 |
| 一、白鷺連合会 会歌合吟 | 副会長 西村夕城 |
| 一、定数報告並びに開会成立宣言 | 総務部(司会) |
| 理事総数:80名[出席 27名・欠席47名(委任状47名)・未着 6名] | |
| 白鷺連合会会則13条により、本総会は成立 | |
| 一、開会挨拶 | 総務局長 岩間鶴声 |
| 一、会長挨拶 | 会 長 松尾佳恵 |
| 本年の10月29日には白鷺55周年・伊豆丸鷺州先生 生誕130年の記念大会を開催致します。 | |
| 会員の皆様のご協力を宜しくお願い致します。 | |
| 一、物故者に黙祷 | 副会長 岡田岳遙 |
| 一、議長選出 | 議長 鷺照吟詠会 大取鷺照理事 |
| 【議 案】 | |
| 1号議案 平成28年度行事経過報告 | 総務部長 谷澤暁声 |
| 総務局 5 部総務/財務/事業企画/広報/ホームページ管理) | |
| 及び女性部・青年部一括報告 | |
| 2号議案 平成28年度会計決算報告 | 財務部長 児玉登春 |
| 3号議案 平成28年度会計監査報告 | 会計監査 { 若林鷺誓
村田訓洲
高田朱粋 |
| 4号議案 平成29年度行事計画案 | 事業企画部長 古賀戊孝 |
| * 5号議案に係る説明 2 件 | |
| ○白さぎ吟詠の集い競吟大会 優勝カップ新規購入について | 事業企画部長 古賀戊孝 |
| 4 月に第56回を終え、それに伴い優勝カップの劣化がかなり進んでおり新規購入が必要と考えます。 | |
| 大きさ・形・持ちやすさ等検討致します。 | |
| ○ホームページ リニューアル作業について<別紙資料参照> | HP管理部長 塩路澄誠 |
| 現ホームページは個人サーバーを借りており、その方が完全辞退される事になりリニューアル検討となる。 | |
| スマホ対応が必然の時代に沿った形のリニューアルでなくてはと考えます。その為の初期投資と年間通 | |
| してのランニングコストの捻出をして頂きました。新しい会員増強・情報発信の手段として宜しくお願い致します。 | |
| 5号議案 平成29年度予算案 | 財務部長 児玉登春 |
| 収入の部 ○会員3050人として算出 | |
| ○鷺迪吟詠会より周年大会のお礼を既に頂いており、雑収入に計上 | |
| 支出の部 ○「ニューしらさぎ」はホームページに移行の予定 | |
| ○今後の周年記念事業準備の為、一般会計より別途積立金へ20万積み増し | |
| ○上記にて説明の | |
| ・ホームページの年間コストは一般会計ホームページ管理部に含み20万 | |
| ・優勝カップ買替え 25万、A3 対応プリンター 2 万、ホームページ初期設定55万につい | |
| ては | |
| 別途預金の特別基金の中から予算計上 | |
| 【その他の報告事項】 | |
| ① 第56回白さぎ吟詠の集い競吟大会結果報告及びお礼 | 実行委員長 岩間鶴声 |
| ② 白さぎ吟行会岡山大会お礼 | 岡山 実行委員長 大取鷺照 |
| | 大阪 実行委員長 森口雪孝 |
| ③ 創立55周年記念吟詠大会について | 実行委員長 山根鋒孝 |
| ④ その他 | |
| ○平成29年度会員実態調査報告 | 総務副部長 森本敬声 |
| ○女性部平成29年度行事計画 | 女性部長 東本秋愛 |
| ○青年部平成29年度行事計画 | 青年部長 池田恍聖 |
| ○平成29年度会費納入についてお願い | 財務部長 児玉登春 |
| 一、閉会挨拶 | 副会長 堂本鷺謹 |
| 一、万歳三唱 | |

地方に活力を

副会長 飯 田 報 鷺



私が浜松支部に入会した昭和44年当時は、大阪との交流は幹部の先生以外全くありませんでした。昭和50年の暮に若鷺の稽古場拝見の取材で、村上先生と野田先生が来浜された時に、浜松に青年部が

発足しました。それまで大阪には全く縁のなかった私が、浜松と関西を行き来するきっかけとなりました。この頃の青年部大会は、ド迫力があり、井の中の蛙の私には、このド迫力にド肝を抜かれたものでしたが、この中の一員として参加できたことに満足したものでした。

それから40年を経過しておりますが、構成吟や競吟大会など極力参加して、吟の発声、抑揚、吟法などを日頃の練習に生かす事に心がけました。

白鷺連合会は、関吟の中でも常に牽引車であり、競吟大会などでも上位に入っております。このような結果をもたらすのは、会の主催する様々な行事に会員が積極的に参加し、お互いが刺激しあうところにあると思います

しかしながら高齢化の波は容赦なく押し寄せて参ります。若い会員さんを誘うためいろいろ試行錯誤をしております。

私は地方会員のため経費がかかり会員を関西の行事に無理に誘えないところがあります。地方の会員が一人でも多くイベントに参加出来る環境をつくることも一つの方法だと思います。

大阪で開催するイベントに『地方から参加するのはいつも同じ顔ぶれだね』などと言われないように地方で開催することによって、一人でも多くの人が白鷺の行事に参加しようという気持ちになる環境を作ってあげたいと思っております。その方法は皆さんのお知恵を頂きたいと思えます。

詩吟を楽しく

財務部長 児 玉 登 春



今詩吟を習っていてよかったと心より思っています。元々守口の商店街80名近くの青年部長をしていた関係で宴会やら飲み会がその頃多くありました。酒が飲めず芸もない私は宴会は“苦”であり、商店街運営を学ぶため、のお付き合いと思っていた時、近所の先生と縁あり吟の世界へ入会しました。

練習に励みました。どこか好きになる処が在ったのでしょう45年も続いています。

自分の生徒を持って初めて勉強不足を感じましたがそれも乗り越え、生徒には上手を言う事もありますが練習は厳しく自分の知っている事は全て教える覚悟です。

詩吟が好きの人ばかりではありません。吟以外に私は漢字の由来などの話や、詩の場面の話を下調べして余談の会話をします。

漢字がなぜか好きで、其のためお習字にも通い、漢和辞典を小説のように眺めたり。吟詠の上手でない私のカーブ球でしょうか。

皆さんが好きな吟詠の道を探して下さい。

第56回 白さぎ吟詠の集い競吟大会の結果報告

平成29年4月9日（日）恒例の上記大会が開催されました。本年の会場は高槻現代劇場において、延べ624名が参加し、日頃の精進の成果を発表するとともに、会員相互の交流を深めた一日となりました。

新人の部（鷺洲杯）

優勝	植木厚子	公認	青誠会
準優勝	稲垣芳雄	公認	岳豊会豊岡
第3位	米澤昌彦	公認	攝友会
第4位	土屋章	公認	青誠会
第5位	加藤百代	公認	岳豊会出石但東

式段の部（大阪市長杯）

優勝	松木春香	公認	鷺伸吟詠会
準優勝	宗盛泰典	公認	攝友会
第3位	松尾昌昭	公認	青誠会
第4位	吹野忠司	公認	鷺声吟詠会
第5位	菊川泰博	認承	鷺舟会

上級の部（鷺恵杯）

優勝	藤原博世	公認	鷺声吟詠会
準優勝	宮崎節夫	認承	船場吟詠会
第3位	森佳奈子	公認	攝友会
第4位	田中ますみ	公認	岳豊会日高
第5位	安田匡文	認承	やまと吟詠会
第6位	内座由紀葉	公認	鷺照吟詠会

壮年①の部（佐藤鷺照杯）

優勝	石原エミ子	公認	鷺照吟詠会
準優勝	太田俊六	公認	鷺照吟詠会
第3位	香西泰彦	公認	鷺伸吟詠会
第4位	岩城洋子	認承	淞苑会
第5位	松本幸江	公認	鷺迪吟詠会

壮年③の部（安田鷺迪杯）

優勝	川角範子	公認	青誠会
準優勝	飯尾大彦	公認	天理吟詠会
第3位	中野清子	公認	攝友会
第4位	島本和子	公認	攝友会
第5位	中尾ヨシノ	公認	攝友会

連吟の部（鷺舟杯）

優勝	丹羽久枝	公認	鷺伸吟詠会
	吉田詔子		
準優勝	高木昭子	公認	鷺伸吟詠会
	松井千征		

団体の部

優勝	公認	攝友会A
準優勝	公認	岳豊会豊岡

初段の部（読売新聞大阪本社杯）

優勝	山田恵美子	認承	春鷺声栄会
準優勝	上田智祥	公認	攝友会
第3位	井谷圭子	公認	鷺伸大阪伸友
第4位	太田雅代	公認	浜松鷺長会
第5位	牧栄理子	公認	鷺伸吟詠会

参段の部（大阪府知事杯）

優勝	小林悠貴	公認	攝友会
準優勝	石飛雄三	公認	広島鷺夕会
第3位	田路唯司	公認	青誠会
第4位	和田彩香	公認	攝友会
第5位	児島太郎	公認	攝友会

最上級の部（鷺声杯）

優勝	中山理恵	公認	鷺照吟詠会
準優勝	中原博司	公認	鷺伸吟詠会
第3位	池田久志	公認	攝友会
第4位	細木重秋	公認	攝友会
第5位	野島節子	公認	鷺声吟詠会
第6位	増田全弘	公認	天理吟詠会

壮年②の部（伊東鷺伸杯）

優勝	大倉美恵子	公認	鷺照吟詠会
準優勝	廣田寿子	公認	鷺恵会
第3位	間嶋節子	公認	鷺迪吟詠会
第4位	田中好子	公認	鷺照吟詠会
第5位	山本進	公認	鷺伸大阪伸友

和歌の部（鷺孝杯）

優勝	安達董	公認	鷺伸吟詠会
準優勝	空富美子	公認	鷺照吟詠会
第3位	内田育子	認承	鷺照会
第4位	中川敏子	公認	鷺恵会
第5位	須田輝美	公認	鷺伸吟詠会

合吟の部

優勝	田中美恵子ほか	公認	岳豊会日高
準優勝	飯田美代子ほか	公認	浜松鷺長会
第3位	内田順子ほか	公認	鷺照吟詠会
第4位	佐田静子ほか	公認	攝友会
第5位	西谷和世ほか	認承	淞苑会

年少の部

優勝	松好映実	公認	天理吟詠会
奨励賞	向田陽菜	認承	澄峰会
奨励賞	箕輪しおり	公認	澄峰会

白鷺連合会 創立55周年記念吟詠大会

歩みをつむぎ “明日へ”

平成29年10月29日（日）午前11時開会 高槻現代劇場 大ホールにおいて、来賓46名、会員720名余が参加し、盛大に開催されました。開会前に小雨が降り出し、開催が危ぶまれましたが大会が終わるころには雨も上がり、大会は大成功に終わりました。

会場

高槻現代劇場 大ホール入り口正面には、伊豆丸鷺洲先生の遺影が掲げられました。



大会次第



開会のことば	山根鋒孝	大会委員長
国歌斉唱	堂本鷺謹	大会副委員長
物故者に対して黙祷	岡田岳遙	大会副委員長
巻頭言唱和	川畑璋鵬	大会副委員長
関西吟詩文化協会会歌合吟		
	芳野歩孝	大会副委員長
白鷺連合会会歌合吟	飯田報鷺	大会副委員長

大会式典

式典は、谷澤暁声 総務部長の司会のもと、厳かに行われました。



挨拶

大会会長 松尾佳恵



来賓祝辞

高槻市長 濱田剛史先生



公益財団公認
大阪府吟剣詩舞道総連盟
理事長 横山寿城先生



大阪府詩吟連盟
理事長 矢間紫水先生



公益社団法人 関西吟詩文化協会総本部
会長 地藏哲皚先生



松尾佳恵会長から
総本部地藏哲皚会長にお礼の贈呈

《会員吟詠》



題壁 関西大学吟詩部



城山 岡山大学吟詩部



望海 青年部



中秋月
宝船
女性部

大阪Aブロック 鷺迪吟詠会・春鷺声栄会・
愛鈴会・澄声会・吼月会・鳶声会



示塾生 (男性)



太田道灌 (女性)

大阪Bブロック 攝友会・鷺郷吟詩会・澄峰会



山行示同志 (男性)



花朝下澱江 (女性)

大阪Cブロック 鷺恵会・船場吟詠会・志舟会・
鷺伸大阪伸友・鷺伸加美



海南行 (男性)



河内路上 (女性)

大阪Dブロック 鷺声吟詠会・成秋会・茨木清流会・鷺舟会・鷺粹吟詠会



大楠公 (男性)



舟中聞子規 (女性)

奈良ブロック 天理吟詠会・やまと吟詩会・守目堂吟詠会・湊苑会・双仟吟詠会



寄家兄言志 (男性)



九段櫻 (女性)

名古屋ブロック 鷺伸吟詠会



寒梅 (男性)



夜下墨水 (女性)

広島ブロック 鷺夕会・鷺雲会・鷺巖会・夕朋会



晩秋弄晴 (男性)



菊花 (女性)

浜松ブロック 浜松鷺長会



松 (男性)



思親 (女性)

豊岡ブロック 岳豊会



惜花 (男性)



弘道館賞梅花 (女性)

岡山ブロック 鷺照吟詠会・岡山鷺照会・
晴吟塾会・薊照吟友会



偶成 (男性)



春日偶成 (女性)

《役員吟詠》



望立山 白鷺役員



竹 参与・相談役・顧問



たわむれに
松尾佳恵 白鷺連合会会長

《来賓吟詠》



奉母遊嵐山 来賓吟詠 (其の一)



松竹梅 来賓吟詠 (其の二)



富士山 来賓吟詠 (其の三)



登鶴鵲樓
関西吟詩文化協会総本部
会長 地藏哲暲先生



ご範吟
大阪府吟剣詩舞道総連盟
理事長 横山寿城先生

《特別番組 構成吟「まりばさみ」》



ナレーション



尾上紅篁
福永洋恵
藤原陽葵



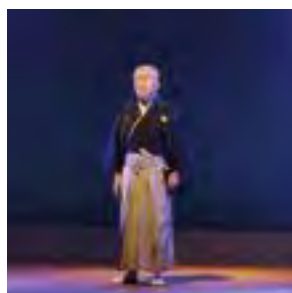
あさみどり
朗詠 阪本 苑鈴



心だに
朗詠 尾崎 魁恵



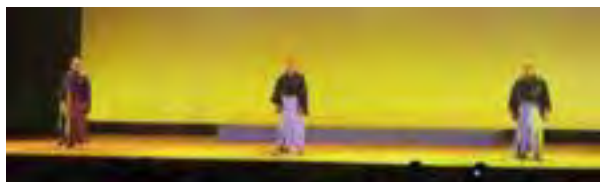
何事も
朗詠 林 夕優



偶成
吟 谷澤 暁声



無心
吟 澤田房詠 高木炎伸
詩舞 片山千絢映



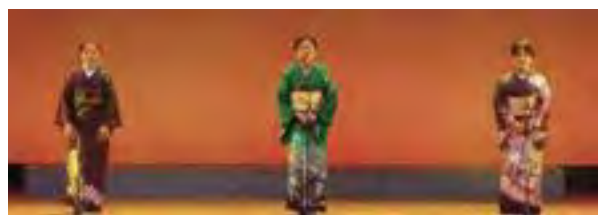
逸題
吟 中原慧声・石井磊伸・田邊聲善



偶感 吟 田中岳涼・吉谷岳愛・宮下岳恭
竹下岳杏・藤本岳縁・田中岳霞
和多田岳延・羽世田岳梅・吉谷岳媛
池田岳晶・井本岳湖・國下岳響
田中岳禅 藤本岳洵



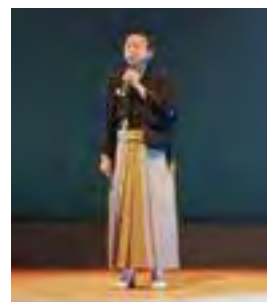
述懷 吟 沖本夕晶・石橋夕藻・重光夕韶



父母 吟 坂下媛鷺・森 佳仁・藤原凜声



親を夢む
吟 米田秋澄



房総雑詠
吟 池田恍聖



自訟 吟 空 純照・内座慶玲



勸學
吟 塩路澄誠



結ばれし
朗詠 吉田琥孝

最後は＜祝賀会＞



高槻現代劇場の3階レセプションホールで行われた記念祝賀会では、来賓の諸先生方とともに大いに盛り上がり懇親を深めました。次の60周年に向けての新たな船出となりました。

開宴の辞 玉森陽郷先生



偶成 吟 菅原嶂孝・細木天孝・岡田省孝
剣舞 浜岡正茲・山口正景・宮城崇親
大久保正黎



祝賀会オープニング

津軽三味線Duo itaru&はたこうじ



待ちわびし
朗詠 中谷淞苑



いかほど
朗詠 大取鷺照



白さぎ55周年おめでとう☆ 乾杯！



追懷 伊豆丸先生
朗読 福永洋恵

追懷 伊豆丸先生
吟 出演者全員



閉会の辞 小井鶴伸先生



地藏哲暲会長を囲んで

吟界の巨星 遂に消ゆ！！

公益社団法人関西吟詩文化協会
公認鷺恵会 理事長 美濃 鷺廣

去る11月6日（月）私たちの鷺恵会名誉会長 宗帥松尾鷺恵先生が逝去されました（享年100）。
茲に謹んでご冥福をお祈りいたします。



松尾先生は、大正7年2月11日に大阪府西成郡鷺洲町（現大阪市福島区海老江3丁目17-4）に生まれ、昭和9年に関西吟詩同好会（現公益社団法人関西吟詩文化協会）に入会、伊豆丸鷺洲先生に師事されました。同36年に愛国詩吟総連盟主催指導者級競吟大会に於いて吟士権を獲得、併せて第一回文部大臣賞を受賞されました。同44年に鷺恵会を発足、会長に就任されました。

同50年に白鷺連合会第二代会長に就任されました。同51年に関西吟詠界で初めての吟詠リサイタル 松尾鷺恵「日本の美をうたう」が公演されました

（この頃、若手であった大橋鷺迅先生や山根鋒孝先生といった現白鷺連合会の大幹部の先生方がスタッフとしてご尽力いただき、大成功を取めました）

<白鷺連合会第二代会長時代>



同62年に関西吟詩総本部第五代会長に就任されました。平成2年に大阪府知事より文化芸術功労賞を受賞されました。

同3年に愛国詩吟総連盟副理事長、同5年に関西吟詩総本部元老並びに白鷺連合会顧問、大阪府詩吟連盟の相談役となられました。

<総本部第五代会長時代>



※上のお写真は、鷺恵先生【米寿】のお祝いの時のもの。琵琶の演奏と謝辞を述べられている様子

同16年に鷺恵会会長を佳恵先生に譲り、名誉会長に就任されました。
また鷺恵先生は、幼少の頃から琵琶を習い始められ、生前、法潤山松尾旭紅と号され、日本旭会総師範・理事の要職に就かれていました。
尚、葬儀は鷺恵会会葬として執り行いました。皆様方には何かとご多忙の処、また遠路多数のご参列を賜りありがとうございました。衷心より厚く御礼申し上げます。

合 掌



※左のお写真は、鷺恵先生【百歳】のお祝いの時のもの。佳恵先生と連れ添われながら



公認 鷺伸吟詠会 創立10周年&支部設立から55年 祝賀行事



公認 鷺伸吟詠会 広報部長 権田啼伸

平成29年、公認 鷺伸吟詠会は創立10周年を迎えました。伊東鷺伸会主が前身の名古屋支部を設立してから数えると55年となります。ここはひとつ盛大にお祝いしなければなりません。

平成27年7月に準備委員会を立ち上げ、基本構想を話し合いながら実行委員会へと発展し、吟詠大会と祝賀会の二本立てと決定しました。それぞれの役員も決まり着々と準備は進んでいきます。大会テーマは「吟 游心」と決めました。

吟詠大会は、10月1日（日）にウインク愛知（愛知県産業労働センター）で、祝賀会は11月5日（日）、会場は名鉄グランドホテルで開催されることとなりました。

吟詠大会では、鷺伸吟詠会12支部のうち愛知県内の9支部が、それぞれの会員数に応じて割り当てられた持ち時間の中で構成吟を企画し、披露することになりました。



＜伊東鷺伸会主あいさつ＞

トップバッターの名古屋中川支部は、「頼山陽 母との吟遊の旅」と題し、頼山陽の詩を聞かせます。中京支部は、「日本の四季を楽しむ」、東尾張支部「漱石と子規」、知多半島支部「福沢諭吉の一生と細井平洲」、愛知やわらぎ支部

「漢詩桜花の詞の世界を詠う」、名古屋西支部「天馬空を行く・李白を偲ぶ」、名古屋南支部「月と遊ぶ」、名古屋城北支部「母を詠ず」、名古屋支部「源平詩吟合戦」と各支部思い思いの創意を凝らし、見るものを飽きさせません。大阪伸友支部、加美支部、北九州支部の県外三支部の吟友も、吟詠と剣舞で花を添えていただきました。



＜吟詠大会万歳三唱＞

吟詠大会の成功に気をよくしつつ、次は祝賀会です。私は祝賀会の企画部長を拝命しており、何をやるのか企画しなければならなかったのかもしれませんが、台本とプログラム作成で頭が一杯で、本来の企画は、会長と理事長にお任せしました。

台本の作成も遅れに遅れて、舞台部の部長から矢の催促。プログラムに至っては、会主直々に細かくチェックが入り、何度も作り直してパニック寸前のところに、さらに当初発行予定のなかった記念誌を、これも会主の鶴の一声で発行することになり、目が回るほどの忙しさでした。



＜総本部地蔵会長の歌「ありがとう」合唱＞

それでもなんとか、台本もプログラムも記念誌も締切りギリギリでしたが間に合い、祝賀会も無事盛会裏に終わり、おいしいお酒となりました。

まあ、私は気楽なものでしたが、会長先生、理事長先生をはじめとした役員の皆様のご苦勞

はいかばかりだったかとお察し申し上げます。

当日、遠方よりお越しいただき、ともに祝賀会を祝っていただきましたご来賓の先生方にも心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



＜小井鶴伸会長あいさつ＞



講師・支部長奮闘記

それからの教室

志舟会玉出 門内 咲 篁



我が教室長、赤松鷺篁先生の突然の他界！

志舟会玉出教室の忘年会当日の朝でした。師走のあわただしい中の通夜、葬儀に白鷺連合会の松尾佳恵会長、伊東鷺伸先生、安田鷺

迪先生ほか各会から多数の先生方が参列くださり、鷺篁先生の偉大さを改めて認識しました。

今までは先生や諸先輩の温かい見守りの中、後について吟を楽しむだけで良かったのに。しかしボンヤリしている間はありません。「自分に何が出来るのか、少なくとも今在籍されている方をガッカリさせぬようどうすべきか。」自問！師範を授与されても、仕事と介護で指導などとても・・・という甘えもありました。そんな時、同じ吟友であった父・亮篁が先生を追うように百歳で他界し、今にして思えば私に“頑張れよ！”と時間をくれはったのかしらと思っています。教室へ行けば正面机には鷺篁先生のお写真が飾られ、その横には先生と父との寄贈のマイクが鎮座。皆が写真に立礼してマイクに向かいます。吟じ終わりお写真に語りかける方もおられます。写真の先生のお顔が満足気であったり、への字口に見えたりするのは何とも不思議なことです。

師範として教室の吟友に“教える”とは、まだまだおこがましく少しでも皆のレベルアップに役立てればと思い私自身、外部の教室や研修会の勉強に行き、また周囲の先生方から教わったこと等をも咀嚼し、間違いが無い様お取次ぎするよう心がけています。このことは私にとって一番の勉強になっています。競吟を目指しより上手になりたい方、あまり形に囚われることも無く詩吟を楽しみ「元気の素」にされたい方など様々ですが、基本は腹から声を出すと共に

詩文をよく理解して吟をするよう、楽しみながら練習をしています。木曜は同期の島田國篁と共に、火曜は赤松青篁・高原弘篁の指導に加わり、この度師範代を受験された方々の手解きが出来たかなと思っています。又月曜の昼・夜組にも時には参加し、先生から頂いた数々の教えを大事に皆で力を合わせて練習に励んで参ります。

指導部の志

鷺迪吟詠会 指導部長 俵積田 輝 孝



平成29年春、鶯が美しい声で唄って居る中、鷺迪吟詠会も10周年を盛会の内に執り行い、早や11年目に入りました。「為せば成る、為さねば成らぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり」と言う古語が有りますが、米沢藩主の上杉鷹山が家臣に示した言葉と聞いております。

100名足らずから200数十名迄会員を増し、安田鷺迪会長と共に指導者の皆さんと、いかなる事が有っても、やり遂げると言う固い信念と弛まぬ努力、また信じ合う心を持って進んで参りました。今は更に、次に向かって進んでおります。

ここで少し安田鷺迪会長についてお話しさせていただきます。「一生初心」の言葉が大好きな先生です。いつの時も、自分を飾らないで、人との絆を大切にされます。年末には毎年、自分のポケットマネーの中より志を1名ずつに頂いております。そっと開けて見ますと5千円が入っていました。金額よりも、もっと大切な心を頂いております。

1名の指導者が何ヶ所もの分会を持って走っております。今、約20名の指導者がおりますが、今後次に受け継ぐ若い指導者を育てて行こうと思っております。滋賀で月1回、大阪で1回と、

その年々の昇段、昇格の講習をして頂いております。

詩吟にはとても厳しく、弛まぬ努力が必要と教えられます。講習が済むと皆なでテーブルを回って1杯のお酒を頂き、和気藹藹とコミュニケーションをとり話は尽きません。安田会長も楽しそうでニコニコと今日も明日も又頑張ろうと言いながら。

私達鷺迪吟詠会は「心を学び、初心を忘れない」との先生の教えを守り、指導者を60名ぐらいにしていきたいと思ひます。「為せば成る、為さねばならぬ何事も」の心意気で命有るかぎり努力して参りたいと思ひます。指導者を代表致しまして一筆有のままをのべさせて頂きました。今後共宜しくご指導頂ける事をお願い申し上げます。

「総てに楽しい総楽支部」

鷺照吟詠会
岡山総楽支部 支部長

池 上 美 照



総楽支部は昭和61年に県西部の総社に発足以来、大島・庭瀬・神戸教室と増え、現在は4教室（会員数37名）の支部となりました。

我支部は定期講座に加えて、春に合同練習とバーベキュー、夏に構成吟の取材旅行、そして、冬には1年の集大成の吟発表と忘年会等、支部名の如く“総てに楽しい”企画を取り入れガラ吟の練習に励んでいます。そんな席で話がまとまり、昨年は創立30周年の記念誌を発行することができました。

我支部の自慢は、支部発足以来毎年構成吟に取り組み、1泊の取材旅行で内容を暖め、鷺照吟詠会の集いや地域の公民館まつりで発表していることです。私もかつて、地元総社市出身の雪舟をテーマにした「禅僧として描き続けた雪舟」を企画・構成し、島根の雪舟庭園や山口の雲谷庵等の旅行を実施し、雪舟が辿った行雲・流水・行脚の生涯に触れることが出来ました。また、他の会員により後醍醐天皇を追って隠岐の島に、名和長年ゆかりの地を訪ねて鳥取へ、平清盛を題材に呉音戸から宮島へ等。どれも思い出深い旅となっております。

私の地元総社教室では中央公民館のまつりに体験教室を開いたり、構成吟（短縮版）を発表し、敬遠されがちな詩吟が、地域の方々に少しでも身近なものと感じられるよう工夫しています。今年は2名の新会員を迎え、喜んでいるところです。

また、倉敷の大島教室では発声練習に「長恨歌」の朗読を入れたり、月1回の吟を離れて30分程、各会員の人生経験談を聞いたり、論語の勉強会をして、マンネリ化を防いでいるということです。

我支部は実に素晴らしい講師、会員に恵まれています。今後益々、楽しく魅力ある支部となることを願っています。

目指すは「己れ遂に詩中の人となる」

成秋会 米 田 秋 澄



木枯らし舞う冷たい朝近くの河川敷で少し歩幅を大きく歩き、頭では、次の教室は、次の大会はなどと、日々詩吟人生を謳歌しております。

謳歌と言う言葉を紐解くと「恵まれた幸せをみんなで大いに楽しみ喜び合うこと、声を合わせて歌うこと又その歌」とあります。まさにそんな人生で、これからも続くのですが、若く可愛い時があり、娘から母になり、いつも、そこには詩吟があり仲間が居ました。

いつしか人を指導する立場になり、そして導くことの難しさ、楽しさを知りました。その中で私自身が一番成長させて頂けたと気付かされます。いつも何かしらわくわくして居て、これこそ謳歌なんだと感ずる日々です。

昨年、本部推進事業のチャリティーを鑑賞させて頂き、一緒に時代を感じて居るかのようでした。何か迫って来て心に刺さるようで、終わった瞬間大きなため息を付いたのを覚えて居ります。体で感じるって、まさに巻頭言で言う「詩中の人となる」を体感した思いでした。

今教室では、巻頭言の唱和、会歌合吟、そしてお稽古と言った具合で、目指すは「己れ遂に詩中の人となる、これを同化という」これを目

指して日々精進を重ねております。

久しく入会者がいない中、1人のお嬢さんが以前から詩吟に興味を持って居たと教室にやって来てくれました。先ず関吟の成り立ちそして巻頭言の唱和、会歌合吟と進めて行くと、彼女が、私「白帝城」が好きなんですと、更にいくつかの吟題をあげ、このお嬢さんは詩心を感じているのだと改めて巻頭言の意味を伝え「白帝城」を吟ずると即入会して頂きました。若者に繋げて行けることの喜びを感じました。

私は東明未来塾の1期生です。1年間多くの先生方に御指導を頂きながら結果を出せずにはいましたが、今回1人でも仲間を増やせたことで弾みが付き、さらなる会員増強へと繋げて行けるように努力します。

奮闘記 60歳からの古文書手習い

双仟吟詠会 仙田博美



家族が勉強していた近世演劇に関連して古文書解読も必要とのことで、当人を田舎の史料保存館で開かれていた古文書教室に車で送っていた。終了まで末席で聴いていて何となく興味

のある世界、温故知新の一つかとの思いも湧いてきたので一緒に習い始めた。

私の勤めていた会社では定年を3、4年後に控えた者を対象に、退職後の過ごし方等に関する講座があった。心豊かな生活を送るために、「何かよい趣味を持ちなはれ」とアドバイスしてくれたが、企業戦士の一人だった私には思いつくものもなかった。古文書解読がその一つになるかとの思いに後押しされたのかも知れない。

対象は近世の古文書で、御家流(おいえりゅう)という書流で書かれたものが多い。幕府、諸藩等の公文書で用いられ、寺子屋でも教えられ庶民にも盛行した書流である。とはいえなんとも読みづらい。変体仮名の崩し字で、旧仮名遣い、当て字、異体字も多く、しかも漢文調子の候文である。崩し字辞典や入門書で少しづつでも体得していく以外に手段はない。劣等生でも仕事が忙しいと弁解すればいいのだと自らを

納得させていたが、無為に過ぎてゆく年月にも焦りを感じていた。そんな時にNHK学園の通信教育に「古文書を読む」講座があることを知り、受講することにした。

テキストには2,3点の古文書があり、それらについて解説・語句の読み方・意味等を学習する。その後に関連する課題文書についてレポートを作成し、添削指導を受けることになる。ぼちぼち読めると思っていたが毎回真っ赤に朱を入れられて返ってきた。解説筆写では読点が入っていないと指摘され、次回に入れると「意味が取れなくなる」などという。

『音読するようにひらがなで書け』という課題でも散々であった。恥ずかしながら朱を入れられた例を挙げると、「可遂精勤事」(せいきんとぐるべきこと)、「加入可被成候」(かにゆうなさるべくそうろう)、「奉之 安房守」(これをうけたまわる あわのかみ)等々であった。

レポートは基礎、応用コース共に10回位提出したが、古文書を系統立てて学んでいない私にとっては基礎的な事項から懇切な指導を受けることができ、得たことも多かった。

古文書教室の仲間が良く話している。「いつまでやるの」「なかなかやめられない」「どうして?」「読めない字が読めたときや、新たな史実を発見した時の喜びはなんともいえない」「そうなんです。崩し字の行間には書いた人の息遣い、教科書に書かれていない、誰も知らない生の歴史が隠れている」「それに健康にもいいです」「なぜ?」「ボケ封じにもなります」

手習いを始めて20年余、全くの門外漢の私もどうやら古文書の魅力に取り付かれ、ボケ封じに役立っているようである。良き師 仲間とも出会え、奈良餅飯殿町にあった幕末維新期の町方史料を解読し、上梓することもできた。

